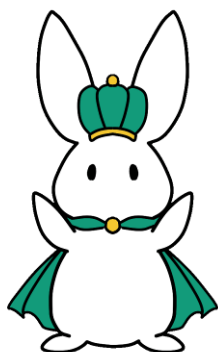


CSRレポート2023



公式マスコットキャラクター
レッキー くん



健康経営優良法人
Health and productivity



公式マスコットキャラクター
レニー ちゃん

ISO9001 ISO14001

Quality&Environmental
Management System

レッキス工業株式会社

＜経営ビジョン＞ 私たちが目指す姿

1. 私たちは、独自の技術・サービスを創造し、業界をリードする会社を目指します。
2. 私たちは、最高の製品・サービスの提供を通じて、信頼される会社を目指します。
3. 私たちは、地域社会に貢献し、社会から必要とされる会社を目指します。
4. 私たちは、共に考え、助け合える、働きがいのある会社を目指します。

トップコメント



代表取締役社長
宮川 一彦

＜輝かしい創業100周年を目指して＞

当社は、1925年に宮川工具研究所を開設以来、一貫してお客様に喜んで頂ける配管機械工具の開発、販売に取り組んで参りました。この間、紆余曲折がありましたが、2025年には、創業100周年を迎えることとなりました。これまで支え続けて頂いた販売先様、仕入先様、また、共同開発等でご支援を頂いたビジネスパートナー様に、改めて感謝を申し上げたいと思います。

さて、コロナ禍がようやく去り、昨今、我が国経済も再び活気を取り戻しつつあるように思えますが、当社は創業100周年を迎えるにあたり、社会から求められている「働き方改革」にも積極的に取り組み、「働きやすい職場」「働きがいのある会社」づくりなど、しっかりした土台作りを目指しています。

＜社は「三利の向上」を経営の柱として＞

創業者が残してくれた社は「三利の向上」は、“「お客様」「社員」「社会」の三者の利をバランス良く追求していくことで事業は必ずうまく行く”という教えです。この考え方をベースに、2017年に、社員に“会社としてどうあって欲しいか？”というアンケートを取り、社員がまとめたのが、上記の経営ビジョン「私たちが目指す姿」です。

当社は、2008年より経営品質向上活動に取り組み、同活動を軸に社会に貢献できる会社づくりに挑戦しています。2023年度より、経営品質向上活動は、“顧客価値経営の推進に力点を置く”と目的を再明確に致しましたが、その活動の基本的な考え方は、当社の「三利の向上」と基本的に同じです。

当社は、100周年に向けての土台づくりとして、「働きやすい職場」「働きがいのある会社」づくりを掲げていますが、「社会から認められる会社」であり続けたいという想いは、昔から変わっていません。このCSRレポートにも沢山の社会貢献活動が紹介されていますが、これからも 社会とともに歩んでいける会社でありたいと願っています。

＜新たな貢献領域を求めて＞

みなさんは、地域興しの事業の一つとして、日本各地で陸上養殖に取り組まれていることをご存じでしょうか？ 近年、温暖化の影響もあり、これまで取れていた魚が取れなくなった、という話が聞こえてきます。このため、養殖による資源の確保が我が国としても大きな課題となっており、既にマグロ、ブリなどは、タイの海での養殖に取り組まれています。

他方で、昨今、新規事業として「陸上での養殖」に取り組まれる地方自治体や企業が増えてきています。

当社では、こうしたニーズに対応するため、酸素供給で陸上養殖魚の生育を促す「高濃度酸素溶解装置」を開発、鹿児島県のウナギ養殖事業者様に採用頂き、センサー、IoT 技術を応用した効率的な陸上養殖システムづくりを進めています。また、こうした陸上養殖の効率化の広がり、将来的には野菜作りなどの農業との結びつきが考えられており、アクアポニックス（水を循環させて陸上養殖と水耕栽培を両立させる）への発展も考えられています。

当社は、私たちの役割を「ワーキングアメンティを創造し、豊かな社会の実現に貢献する」としています。現在、配管機械工具分野が経営の柱ですが、新たな“ワーキングアメンティ”を創造し、社会に貢献していきたいと考えています。

独自の技術で豊かな未来を創造する商品

レッキスのモノづくりは、「お客様の喜んで頂く顔」をコンセプトに、「独自性・感動・創造性」の3つを開発ポリシーに「現場作業に見合った最適な商品」の提供を志し、作業者と作業現場に密着した商品開発を行うため、お客様の声に耳を傾け、お客様と共に歩んでいきたいと考えています。出来上がった商品は、様々な場所・場面で使用していただき、役立っていることを嬉しく思っています。



◆2020 年度建築設備技術遺産に認定

1959 年に初めて国産パイプマシン（自動ネジ切機）を開発、以来、新しい技術で様々な配管工具を開発してきたことが認められ、「切削ねじ」「転造ねじ」の開発が一連の関連技術遺産として一体で評価されました。



建築設備技術遺産

認定第38号 自動切り上げダイヘッド付き切削ねじ切り機および 転造ねじ加工機



「建築設備技術遺産」とは、建築設備における空調・衛生・電気・搬送の4領域に関する技術と技術者の歴史的な足跡を示す具体的な事物・資料であって、建築設備技術の進歩・発展において重要な成果を示したものや、生活、経済、社会、地球環境、技術教育に貢献した、または当時を反映する技術遺産である建築設備技術のいずれかに合致するものをいいます。

今回の認定は昭和4年日本で初めてオスタ型パイプねじ切り器の国産化に成功したことから始まりました。その後自動切り上げダイヘッド付きのパイプマシンが登場したことにより、作業者の経験と勘に頼っていたねじ切り作業は未経験者であっても熟練者と同じ品質でねじ加工ができるようになりました。

更にこの切削ねじ切り機に続いてより良い丈夫な配管ねじを実現するために、塑性加工でねじ加工を行えることができる転造ねじ加工機の量産化にも成功しました。

ねじ部の肉厚を確保できるため溶接並みの機械的接続強度を実現し耐環境性、耐腐食、配管の長寿命化にすぐれたねじ接合の可能性を切り開きました。

独自の技術で豊かな未来を創造する商品

レックスでは、切る、継ぐをメイン事業としていますが、近年は計測分野の商品にも力を入れています。これは計測における労力を減らし、労働環境の改善や効率化に貢献するためです。また次々と普及が進む工法にも対応しており、労働環境や生活環境などすべての環境を保全するという目的に向かって努力しています。



◆ レーザー距離計 RX-DB50



小型測量機器の新製品として、レーザー距離計を新たにリリースしました。

弊社の距離計として第一弾となる本製品は、幅広いお客様にお使いいただくため、以下の条件を掲げました。

- ① プロユースにも耐える高精度（±2.0mm @10m）
- ② Bluetooth Low Energy によるスマートデバイス接続
- ③ 距離計として必要十分な機能
- ④ お求めやすい価格設定

距離計として①と③は外せません。みるみるくんシリーズで好評を博している②も、取り入れたい機能でした。

これら全てを備え、他の要素をシェイプすることで、④も兼ね備えた商品化が可能となりました。

◆ RB チューブカッタシリーズ 空調ドレン管用カッタ RBN42D、RBN67D



RB チューブカッタシリーズでは銅管及び薄肉ステンレス管などの切断や薄肉ステンレス管の溝付けなど、幅広い用途に対応した工具として多くの種類の機種を以前よりラインナップし、ご好評いただいております。

今回商品化したものは空調ドレン管（略称）を綺麗に切断するために開発したカッタです。空調ドレン管とは空調機のドレン配管専用の管であり、管の外層と内層は硬質塩ビ層ですが中間層は柔らかい塩ビ発泡断熱層になっています。このように硬い層と柔らかい層が一体になっている管であるため、綺麗に切断することが難しい管種でした。

このような管を綺麗に切断するには刃先を鋭くすることが必要ですが鋭さの程度によっては手の裂傷などの原因となります。この2つの課題を解消するために試行錯誤を重ね、それらを解消するものを商品化することができました。

独自の技術で豊かな未来を創造する商品 業務の効率化 (DX 推進)

早くから、デジタル化による業務の効率化に取り組んできたおかげで、新型コロナ禍でのリモート対応や働き方改革への対応にも、短期間で着手、完了ができました。また、お客様にホームページに登録いただくことで、定期的な情報発信や特別なサービス提供ができる「レックス倶楽部」の仕組みの導入、さらにInstagramによる、情報提供も始めており、お客様との新しいコミュニケーションの方法を模索しております。



◆お客様とのコミュニケーション手段の充実

当社ホームページにある「レックス倶楽部」にご登録いただくと、取扱説明書、安全データシート (SDS)、ソフトウェアのダウンロード、所定フォームでのお問い合わせ、カタログ冊子のご請求、お客様カードのご登録など、これまでになかった特別なサービスが得られる特典があります。これまで、多くのお客様にご愛顧いただき、創業以来、事業を続けてこられたという歴史がありますが、これまでお客様と効率的、効果的に情報共有できる仕組みがありませんでした。デジタル技術の導入はそうした状況を一変させており、当社のお客様とのコミュニケーションの手段は日々進化しています。

REXからの情報は随時配信中!是非お見逃しなく!

WEBサイト

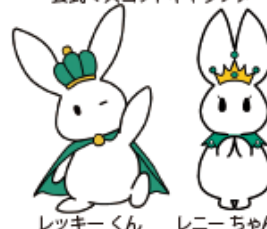
instagram

Facebook

REX倶楽部



公式マスコットキャラクター



レッキーくん

レニーちゃん

お客様カード WEBからも登録できるようになりました。

◆マシニングセンター (MC) による部品加工の自動化

当社では、積極的にマシニングセンター (MC) を導入し、部品加工の自動化を進めています。沢山の品種があるため、これまで専用の加工機による作業が多かったのですが、MC の導入により、作業の効率化が進んでいます。



新しい価値提供 (DX 推進)

当社は、大手事業者様からの要請を受け、それまでは「経験と勘」に頼りがちだった配管検査を、デジタル技術を使う事で誰でも同品質の検査を可能とする「みるみるくん」の開発にチャレンジ致しました。ユーザー様の使い勝手を大きく改善するために、膨大なソフト開発が伴いましたが、そのことにより社内に更なるデジタル技術の蓄積ができ、結果として、お客様のお困りごとを丁寧に解決していく、新しい価値提供ができるようになりました。



◆ デジタル式 圧力・満水試験記録器 むるみるくんⅢ (iOS®対応)

「みるみるくん」は業界初の商品で、配管検査（漏れ確認試験）である水圧試験・気密試験・満水試験などに使用するデジタル計測機器です。

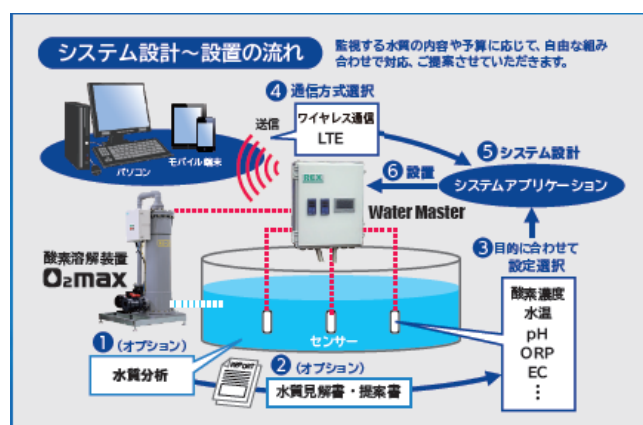
従来は、目視で確認・判定し、試験の記録（エビデンス）として写真を撮り、写真を貼り付け報告書を作成するアナログ的な試験方法でした。

「みるみるくん」により自動計測・自動判定し、iPhone®・iPad®専用アプリで試験データを収集、グラフ化したデータを確認、転送し、パソコンで報告書を自動作成するスマートテストシステムです。

配管検査の省人化・効率化による生産性向上、そして施工品質向上に貢献します。



◆ 養殖池水質管理支援システム Water Master

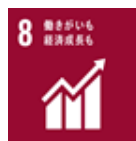


Water Masterは養殖池の水質異常を事前に防ぐために開発された画期的なシステムです。

このシステムでは、水質ごとの変動推移をグラフ化し、池の状態を可視化します。そこに水質の変動値を設定することで、最適な養殖環境の実現をサポートします。設定した許容値を逸脱した場合、タブレットやスマートフォンを通じて自動で、作業者に通知され、適切な水質対策を行うことで、水質の早期改善を促します。15池までの集中監視が可能で事務所で PC ディスプレイに表示すれば、毎日水質を測定していく必要がなくなり、養殖業者様の働き方改革にも貢献できます。

障がい者雇用への取り組み

創業以来、障がい者雇用には積極的に取り組み、障がい者の方が安心して働ける会社づくりを進めています。2022年6月現在では、障がい者雇用率は10.87%と高い雇用率を維持しています。具体的な取り組みとして、社内報告会では聴覚障がい者のために外部に手話通訳を依頼したり、入社員へ社会人として必要な知識の勉強会などを実施しています。これら取り組みの実施内容が認められ、2020年12月に「障がい者雇用優良中小事業主」（通称：もにす）に、大阪府で認定された最初の3社の一つとなりました。今年度も継続しています。



◆聴覚障がい者への取り組み

方針発表会等の会社の重要な行事や研修では、必ず外部より手話通訳者に来て頂き、報告・研修内容の理解に力をいれています。本社工場以外の聴覚障がい者にも伝わるように手話通訳はインターネット中継も行っています。また社内で手話勉強会も定期的に開催しております。



◆地域で働く障がい者への取り組み

毎年5月の第二日曜日に「大阪府布施障害者雇用対策協議会」を代表して、周辺企業で働く障がい者の支援として「東大阪市民ふれあい祭り」に参加しています。今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、出展数を縮小しての開催となり、参加することは出来ませんでした。例年は会員企業様から頂くバザー商品の販売で大いに盛り上がっています。また社員もバザー品を店の前に立って紹介したり、スーパーボールすくいなどで活気と楽しさに満ちたお祭りです。



バザー店での収益金は全て同対策協議会に寄付しています。

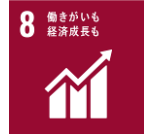
この寄付金は会員企業で働く障がい者の雇用定着を目的としたレクリエーションの一部に使われています。

例年、観劇「吉本新喜劇」に招待しており、皆さんに楽しんで頂いております。



支援学校との交流

職場への受入れは春先に工場見学、6月からは随時各支援学校と調整し、職場実習の受入れを行っています。また季節毎にたまがわ高等支援学校の生徒さんに花壇いっぱいお花を植えていただいています。お花は近隣住民の方々にも鑑賞していただき、当社の風物詩になっています。夏の取れたて野菜の販売も恒例になりました。そして生徒さんの頑張るその姿を見て、社員も前向きな気持ちを分けて頂いています。



◆工場見学や職場実習の受入れ

支援学校からの工場見学は新学期からの職場実習先を選ぶなどの理由で3月から始まります。昨年の春先の受入れについては、コロナの影響で延期となり、工場見学は6月に たまがわ高等支援学校より 11名の生徒さんが来られました。また職場実習は、11月に たまがわ高等支援学校、2月に 東大阪支援学校、3月に だいせん聴覚高等支援学校より、それぞれ1名の生徒さんが体験学習をされました。

たまがわ高等支援学校からは入学したばかりの一年生が社会勉強を兼ねて工場見学に来られます。

見学後の質疑応答では初めてのことばかりですので、多くの質問をいただきます。今年も6月に工場見学に来られる予定です。



◆野菜の即売会

たまがわ高等支援学校の生徒さんが毎年8月にその日の朝に収穫したばかりの野菜を持ってきてくれます。この野菜は弊社の昼休みの時間帯に販売され、社員が我先にと集まって飛ぶように売れていきます。

朝の収穫から準備し、販売中も手を休めることなく頑張っている生徒さんには頭が下がる想いです。



◆季節を彩る花を花壇に♪

毎年季節を彩る花々を正門前の花壇に、たまがわ高等支援学校の生徒さんに植えて頂いています。植えられた花は成長が早く、近隣住民の方々も立ち止まり鑑賞していただいています。

四季折々の花を眺めることができ、心がとても和みます。

先生方や生徒さんには本当に感謝しております。



未来ある子供たちへの支援

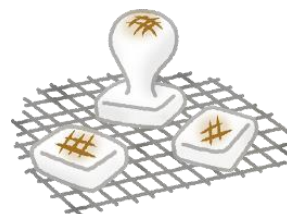
これからの子供たちのために何ができるかを考え、児童施設への定期的な寄付や、会社行事への招待などを中心に支援を続けています。大阪市内にある児童団体には毎月寄付をおこない、東大阪工場の近隣児童施設の子供を年二回の会社行事に招待をしています。またペットボトルのキャップを全社で回収し、支援団体を通じて世界中の貧困の渦にいる子供たちへ少しでも貢献できたと願っています。



◆児童施設への寄付

年末は近隣の児童施設「生駒学園」へお餅の寄付を続けています。同時に近隣の老人会へもお餅を寄付しています。

年明けには同施設の子供たちより毎年お礼の貼り絵が届きます。お餅を焼いて膨らんだ可愛い絵などが私たちを楽しませてくれています。



「貧困や機会差別をなくし、虐待に苦しむ子供をゼロにする」を理念に活動されている「みらいこども財団」へ毎月の寄付を続けています。

同財団は大阪と東京を中心に児童養護施設への訪問活動を続けられています。



◆近隣児童施設の子どもたちとのふれあい

本社工場近くの児童施設「若江学院」の子供たちを会社行事に招待していましたが、今年もコロナ禍の影響で会社行事に招待できませんでした。

せめてもの楽しみにしてもらえたらと、クリスマスプレゼントとして小さなお菓子のセットを用意させて頂きました。

後日、子供たちから「おいしかったよ!」「ありがとうございます。」とのお手紙を頂きました。早くコロナが収束することを願い、また会える日を楽しみにしています。



地球環境を大切にした活動

「事業活動を通じて、環境保護に貢献する」を環境方針に掲げ、設計段階から環境配慮した商品や、生産活動における電力削減、徹底したゴミ分別による排出されるゴミの削減（リサイクル率向上）などを重要項目として取り組んでいます。特にゴミの分別に関しては、分別しやすくするための改善を推し進めています。



◆駅前清掃の継続

コロナ禍の影響で回数は減りましたが、今年も駅前までの道のりで清掃を行いました。ゴミも拾い出すと無心で集める社員の姿が見られ、心もきれいになったようでした。また、地域に育てられたご恩も忘れずにいたいものです。



◆近隣清掃活動の開始

毎週末の金曜日の午後に全社員参加型の工場近隣清掃に取り組んでいます。最近では近隣の皆様に「ありがとう」とお声をかけて頂くようになり、地域の方との距離が近づいていると感じています。地域住民の一員としてこれからも美化活動を推進していきます。



◆継続した環境活動を目指して

製品や部品の梱包材として使用していた古新聞の入手が困難になり、修理部門、出荷部門からの悲鳴が聞こえてきました。環境委員メンバーからの提案により、リサイクルに回していた古紙をリユースできないか検討し、シュレーダー用紙を小分けし梱包材として必要数を対応することができるようになりました。



働きがいのある職場づくり

社は「三利の向上」より社員満足に繋がる「働きがいのある職場づくり」を進めています。社員が健康で、活力ある職場を目指し、「ありがとう経営」など色々な取り組みを続けています。



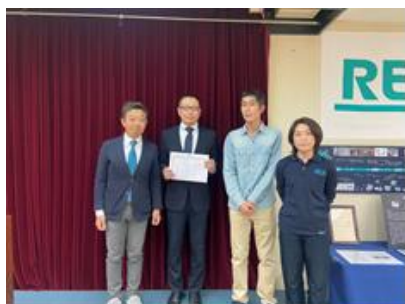
◆ありがとう経営の実践

ほめ合う文化をつくろう！の合言葉で始めた社内ネットワークの掲示板「ほめ合える掲示板」には多くのありがとう！の書き込みがあります。掲示板を立ち上げてから早10年が経過し、今ではレックス文化としてすっかり定着しました。もちろん掲示板以外のところでもありがとうの言葉が職場内や職場間で飛び交っています。



◆効率よく仕事をするための工夫・改善

仕事を楽に！を目指し様々な場面、工程、場所で改善が行われています。今年の優秀提案賞は3件出ました。各職場特有の課題に対して、どうすれば効率化が図れるのか、ミスを無くせるのかなど、社内間の協力を得て、チームプレーで問題解決に取り組んでいます。



◆健康経営優良法人の認定継続して受けています。

2017年度より本格的な健康経営の取り組みを始め、今年も健康経営優良法人の認定を継続して受けております。

「ブライト500」認定までは叶いませんでしたが、産業医等の専門スタッフと連携し、アドバイスをもらいながら、職場環境の向上に向けた新たな取り組みで、働きがいのある職場づくりに努めてまいります。





大正14年8月1日、創業者・宮川作次郎がレッキス工業の前身である宮川工具研究所を創立し、お客様に喜んでいただける配管機械工具の開発に日々努力・研鑽して参りました。

社は「三利の向上」にもあるように、我々は、お客様と社員と社会、すべての人が良い状態でなければ、会社の繁栄はあり得ないと考えています。

三利の“利”とは、商売の利や儲けのことだけをいっているのではなく、広い意味での「利」つまり「ためになること」を意味します。

企業として「お客様の心を捉えるものを造れなければ意味がない」「良い物を造っても売れなければ何もならない」が、創業者の経営哲学であり、お客様の心を捉えるために、どのような努力も惜しまず、全力投球でチャレンジすることが当社の根本精神です。

NOTE



NOTE



NOTE



REX

あ り が と う

明るく元気を職場をめざし

理想と理念を高く持ち

(か) 感じたことを言葉にして

共にほめ合い、助け合い

嬉しい気持ちを分かち合おう！

二〇一五年 一月二二日 今作

感謝

この「ありがとう」語録は、私たちが目指す理想の姿「社員一人ひとりが元気で、働きがいのある会社」を実現するための「合言葉」になればいいなと、皆様の知恵を集めて作ったものです。

まさしく感謝とは「感じたことを言葉にして届けること」です。言葉でお互いの心と心がつながり合えば、きつと明るく楽しい職場や会社になることでしょう。

上司は部下の行動を感謝の気持ちでほめ、仕事は助け合いと、会社にいると気持ちが湧き上がってくるような、そんな働きがいのある会社にしましょう！

レックス工業株式会社